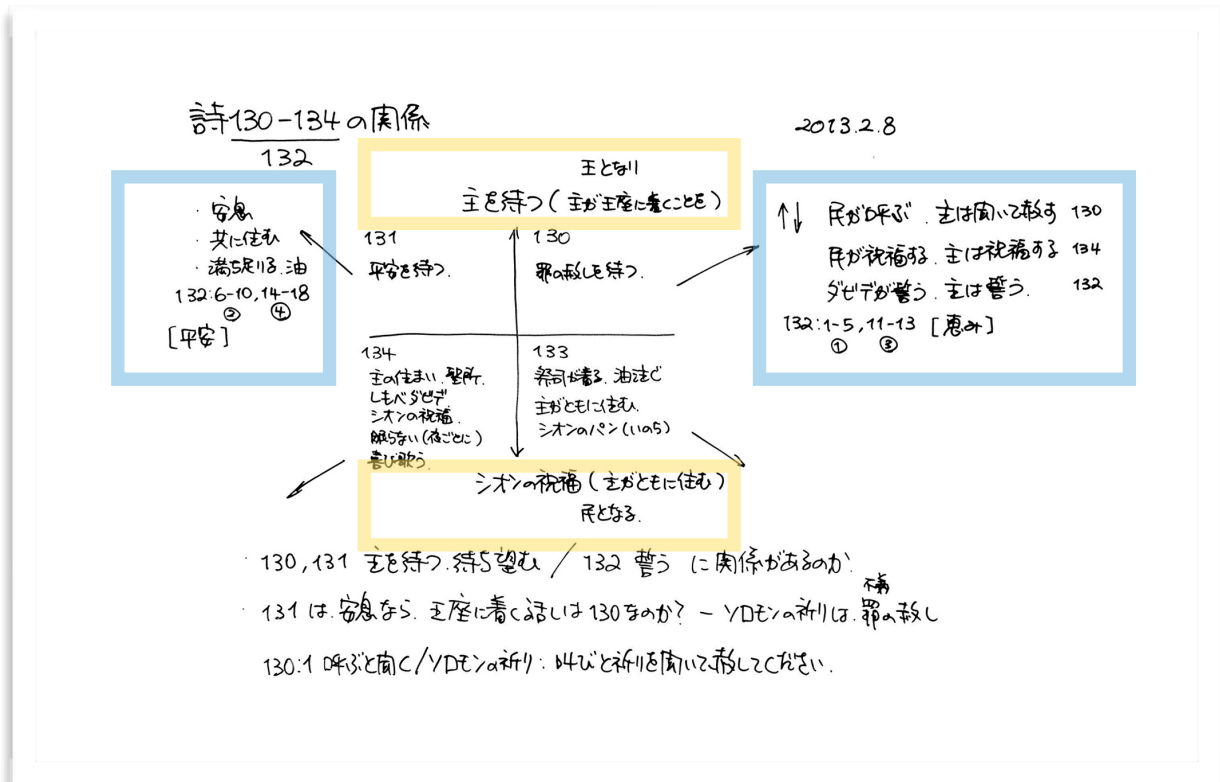




詩篇第五卷 都上りの詩  
詩篇130-134篇



詩篇130から134篇。都上りの3段落目。132篇を中心に130,131と133,134という4つが配列されていますけれど、この130から134の4つ、この4つの関係はどうなっているのかということ把握します。そのためには132篇とのつながりが大切になります。130,131のキーワードで見ると「主を待つ」ということがキーワードになっています。133と134を見ると「シオンから祝福される」ということがキーワードになっています。けれど、132とのつながりは何だろうかということをお考えなくはいけないということでした。

130,131の主を待つ、待ち望むというのは、何か132で強調されている誓いと関係があるのかなというようなことを考えました。131が安息ならば、130のほうは王座に着く話と関係があるのかなと。

王座の話と安息が132篇のダビデの祝福の内容の2つですから、130のほうは王座に着く話なのかなというように考えました。ソロモンの祈りの中に130にある罪の赦し、不義が赦されるということが何度も書かれていた通り、神様が主が王座に着く、主の王の子が王座に着くならば不義が赦されるということが、待っていることの中心だと言えますので、130篇は主が王座に着くことを待っている詩篇だということが言えるでしょう。130篇の出だしのところで、呼ぶと聞いてくださるという出だしでも始まっていますね。それは、ソロモンの祈りが、叫びと祈りを聞いて赦してくださいと何度も書かれているところを連想しますので、130篇は罪の赦しを待つ、王が来ることを待っている詩篇だということで、130と131は、主が王座に着くことを待っている。

133と134は、主が私たち民と共に住んで祝福して下さる。主が共に住んで下さるのがシオンの祝福の中心であるということが133と134。王となり民となるというのが前半後半のつながりだというふうに思われます。

130と133のつながり、もしくは130と134の斜めのつながり、どっちのかなあというふうに見ていましたけれど、130と134、131と133、このクロスしているほうのつながりになっているだろうと(思われます)。

130と134。130は、民が神様を呼ぶと神様は聞いて赦してくれる。134は、民が祝福すると主は祝福する。132は、ダビデが誓うと主は誓いを果たすというお互いが応答しあう関係であるということが130と134、132の4つに分けた時の1番目と3番目の段落に並行しているものだろうと。

131と133、この祝福、平安というところを見ると「安息、共に住む、満ち足りる、油を注ぐ」というようなキーワードが出てきますけれど、こちらは、132の(4つに分けた時の)2番目と4番目の段落に該当するものだろうということで、こちらは一言でいうと「平安」。130と134のほうは民と神様の関係、これは「恵み」の関係であるというようにまとめられると思います。バツテンのほうです。

こちらは恵みと平安ということでダビデの契約の祝福を表現している構成になっているというように思われます。